

リプロニュース

2006.7.31

2006年

リプロネットみやぎ第1回会員研修会報告

2006年通常総会に引き続き、第1回会員研修会が開催されました。講師に元坂総合病院院長で循環器内科専門医の村口至先生をお招きし、「更年期からの女性の循環器疾患—茜色の人生にするためにー」のテーマでお話を伺いました。講演要旨を紹介します。



女性ホルモンの低下によって、更年期には心身にさまざまな変化や症状が現れます。更年期以降の女性の医学的な特徴として挙げられるのは、①循環器疾患（高血圧、虚血性心疾患、脳血管疾患）②代謝性疾患（糖尿病、高脂血症、内臓肥満）③ストレス（不整脈）④骨粗しょう症。とりわけ、男性と比べて循環器疾患の増加が注目されます。

循環器疾患のうち、虚血性心疾患には①狭心症②心筋梗塞があります。いずれもだい自覚症状には性差があり、男性の場合は主症状が胸痛であるのに対し、女性の場合は胸痛のほか、あご・のどの痛み、呼吸困難感、背部痛、吐き気・嘔吐、動悸など多様な症状として現れます。心筋梗塞の発症率は男性の方が高いのですが、死亡率は更年期以降の女性の方が高い傾向があります。

虚血性心疾患・脳血管疾患・動脈硬化性疾患の危険因子は①高血圧②高脂血症③糖尿病④喫煙⑤ストレス⑥炎症（歯周病など）。男性の場合は喫煙、女性の場合は高血圧が最も多いというデータがあります。高脂血症については最近、①酸化LDLコレステロールを重視する②合併症、虚血心の状況で治療方針を決定する③リスクファクターがなければ、こだわり過ぎないーというように予防・治療の面での見直しが始まりました。総コレステロールと死亡率の関係から、研究者の間では総コレステロールを下げ過ぎることに批判的な意見も多くなっています。最近は、性差医療の考え方を目が向けられるようになりました。コレステロール（脂質）の管理目標も、女性と男性では違いがあり、特に更年期以降の年代では男女差が大きいと意識しなければなりません。

脳血管疾患には①脳出血②くも膜下出血（脳動脈瘤破裂）③脳梗塞があります。脳梗塞の中で50歳以上の人多いのは無症候性のラクナ梗塞・狭窄。70歳以上では無症候性頸動脈狭窄が急増します。脳血管疾患の死亡率のデータを見ると、70代以上の女性では未婚者の比率が顕著です。

「すべての人々に健康を」とうたつたWHOオタワ憲章（1986年）は、「健康のための資源と基本条件は平和、居住、教育、食物、収入、安定した生態系、社会的正義と構成である」「健康は自分と社会のすべての人々が健康を創造できることを保障する社会によって創られる」としています。健康の悪化は自己怠慢によるとする自己責任論に対して、憲章は「本来健康問題の責任は社会にある」としています。健康至上主義に対しては「健康が人生の目的化している社会は、人間の完全なる自由と幸福が獲得され得ない社会」と断じています。しかし、最近の健康促進法、医療法の改定（改悪）では疾病自己責任論が強まっています。公的医療費の削減という国家戦略は、格

差社会をさらに拡大させ、国民の健康悪化につながりかねません。

アメリカでの統計を元にした研究では、①所得格差が大きいほど殺人発生率が高まる②不平等な社会ほど年齢調整死亡率が高い③所得に対する福祉補助の上限額の割合が低いほど、「人は信頼できない」と答えた人の割合が高いーなどの結果が示されています。日本でも、内閣府が「ボランティア活動をする人の割合が高いほど、犯罪発生率が低い」というデータを出しています。

不平等な社会が健康を損なう。社会資源が豊かだと病気の発生率が下がるーということです。豊かさはG N Pでは計れません。経済的・社会的格差のない社会、平和・共存に価値を置く社会、個人責任ではなく社会連帯に価値を置く社会こそが、健康を発展させると言えるのです。

女性の更年期以降は①自己の身体変化と生活環境変化が同時的に集中する→症状が複雑多彩②仲間や社会との関係の再構築が求められるーといった特徴があります。自分にこもらない、追いつめないこと。他者や社会と連帯・協働の関係を築き、自立・自律を意識して創造的な人生を生きることが大切です。

■ 「男女共同参画社会の実現をめざす全国シンポジウム in 宮城」が開催されます。

テーマ『男女共同参画基本法から6年—今、何が必要か』

- ・日時：10月1日（日）午後1：30～5：30
- ・会場：アエルビル5階「仙台情報産業プラザ」他目的ホール

21世紀の日本に生きる私たちにとって望ましい社会の在り方を男女共同参画の視点から考えるため、政治参画、次世代教育支援、福祉、農山漁村などの各分野における諸課題をテーマにした全国シンポジウムが開催されます。

【内容についてのお問い合わせは】

☎022-301-7751

男女共同参画社会の実現をめざす全国シンポジウム in 宮城実行委員会事務局

■ 「第6回日本性科学学会学術集会」開催に協力します。

本年度11月18日・19日に開催される「第6回日本性科学学会学術集会」で村口副代表が学会長を務められます。その際に開催される特別講演会「美術史を通して見るジェンダーとセクシャリティ」を、リプロネットみやぎの本年度の公開セミナーとして協力開催することになりました。

詳細につきましては、決定しだいお知らせいたします。

■会費納入について

未納の会員の皆様には振り込み用紙を同封いたしました。
会員継続のご意志のない方は、お手数ですが事務局まで御一報をお願いいたします。

FAX. 022 (719) 7237